

熟藝特製お花見企画 ～ 銭湯へ行こう！

文化庁認定登録有形文化財の「源ヶ橋温泉」

で楽しむ落語「湯屋番」と「花見風呂」

日時：2008年 4月5日(土)午後1時～4時

落語：林家染二・林家卯三郎

落語文化庁認定登録有形文化財 源ヶ橋温泉

大阪市生野区林寺1-5-33 Tel. 06-6731-4843

JR環状線「寺田町」駅から徒歩6分

今年の花見はと考えていたところに、昭和12年生まれの大阪で唯一の文化庁認定の有形文化財の「源ヶ橋温泉」に出会った。そして、その中に建物に寄り添うように根を張る桜の老木に心引かれた。宮大工が三年かかって建てたという建物の屋根の上には鯨が威勢よく跳ね、温泉マ



ークを高々と掲げたニューヨークのシンボル・自由の女神一対が入浴客を出迎え、二階の窓は丸と四角のステンドグラスがレトロモダンな輝きを放っていた。玄関先には、源ヶ橋の欄干が表札代わりに鎮座する姿を眺めていると戦前・戦中・戦後と、この建物と共に毎年春を愛でるように桜の木も枝に溢れんばかりの花を飾りながら、流れ行く日本人の暮らしをも眺めていたのかと思うとどこかとても愛おしかった。

銭湯離れに追い討ちをかけるような原油高が経営を圧迫するなか、何度か銭湯に通ううちに文化財でもある銭



湯を守ってきた主の思いもこの建物に魂を吹き込んでいるかのように思えた。この素晴らしい空間で久々に銭湯に浸かり、地域のコミュニティでもあった銭湯について顧みたいと考えた。できれば、その老木の桜の花と共にと思いつき、源ヶ橋温泉のご主人にもご協力いただき、いつもは午後3時に上げ

る暖簾を1時にあけていただき、男風呂の脱衣所を開放いただき、窓をあけ一緒に落語を楽しむことにした。

更に、以前は男風呂には「竜宮城」が女風呂には「桃太郎」のタイル画を壁を飾っていたが、浴室のリフォームの時に白色一色のタイルに張り替えたそうで、それがまるでギャラリーのように見えた。フラワーデザインに取り組む清水大地さんにお話し、浴室に花を飾ることに挑戦いただくことになった。浴室内は高温なので、生花は無理なので大型のアートフラワーを作成。湯船に浸かりながら花を楽しむという趣向となった。



12時に早めに駆けつけた塾生と林家染二師匠に林家卯三郎匠と相談しながら、男風呂の備品を移動し、窓側に床机を積み上げて赤い毛氈を引いて高座を造った。

12時半に三々五々参加者が集まり男性の脱衣所は寄席小屋に変身。



林家染二師匠が、当初一席のところ、おまけにもう一席。急いでいるので人力俵に乗ったところ、驚くほど足の遅い車夫に戸惑い、次に乗り換えた俵の車夫が怖

いほどスピードを出すという人力俵の両極端の乗り心地を笑いにかえる「反対俵」を披露。

続いては、林家卯三郎師匠が、お馴染みの「時うどん」を熱演。続いては、親に勘当された若旦那が出入りしている大工の家に転がり込んだが、いつまでも居候は続けられず、銭湯に働きに行きあれこれ出来ないとい



いながら、主人が食事にいく間に番台にあがるが、男風呂は満員で、女風呂は空。そのうち艶っぽいお姉さんが来るだろうと番台の上で一人芝居をはじめるといふ銭湯を舞台にした落語「湯屋番」で爆笑。

初めて生で落語を聴く参加者もあったが、時々桜も笑いを吹き出すように、快い風と共に桜が花びらを散らしていた。窓からの日差しと花びらと風がなんとも快い。

落語終了後に、参加者寄り固まって記念写真。コーヒー牛乳を飲みながら、男女の浴室を巡って清水さんのアートフラワー作品を鑑賞後、男女に分かれて2時半からゆっくりと湯船に浸かりながら昼下りの銭湯を楽しんだ。



参加者：一般：42名様 塾生：秋山建人・大利忠・大森史子・柄谷宗子・北原吉朗・北原祥三・木村正治・下野譲・杉山英三・中島一・浜田真弓・原田彰子・原田貴志・東口恵子・平野康子・深堀正晶・宮本麗子・宮本雅彦・森田秀朗・米川俊三

